Vol.09　メジャー・トライアドの基本素材を弾いてみる

では、vol.09、始めていきましょう。

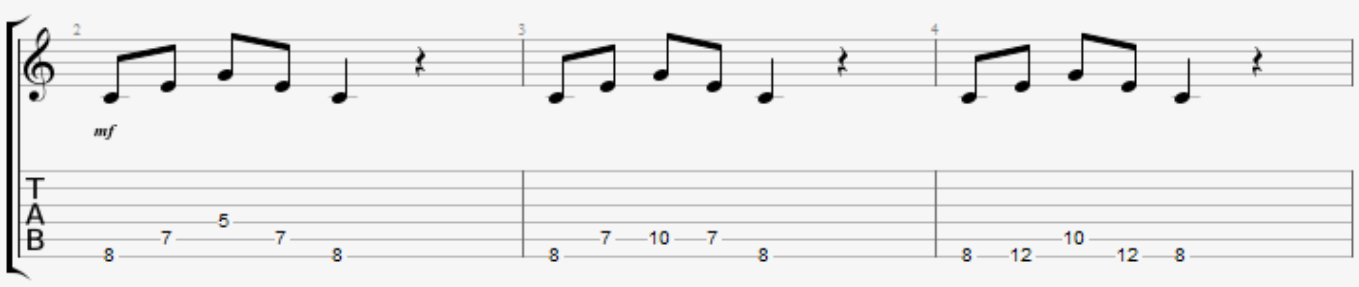
今回は、メジャー・トライアドの構成音を、単音で弾いて行くパターンをやってみます。

メジャー・トライアドの構成は、root(tonic)、M3rd、P5th ですね。

これを同時に押さえて、ポーンと鳴らすとそれはコードプレイなわけですが、単音でバラバラに弾くと、コードトーン・アルペジオ的なプレイです。

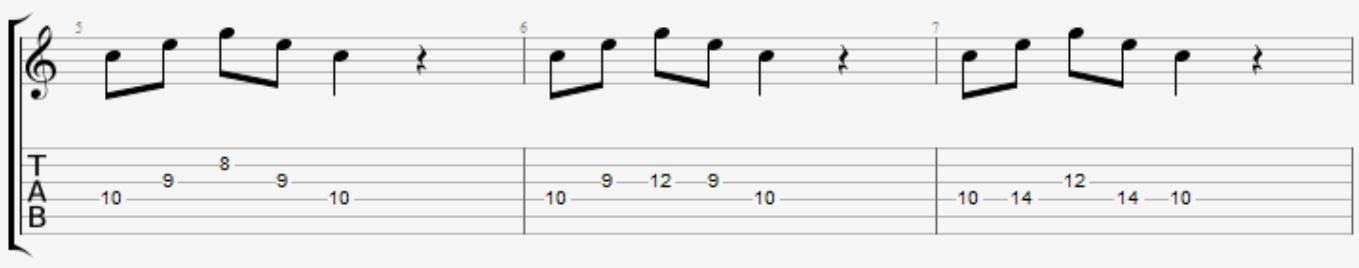
ルートは C 音で、C メジャー・トライアド(C、E、G)の、最もシンプルな形からやっていきましょう。

譜例、C メジャー・トライアド 6&5 弦ルート

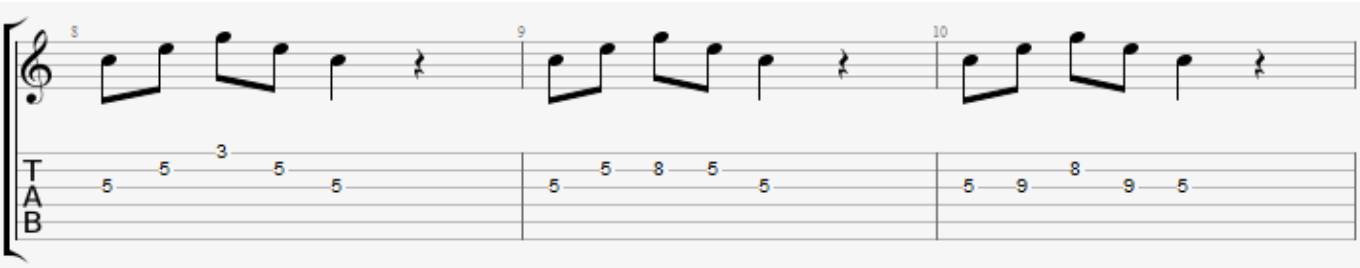


※5 弦ルートも形は同じです

譜例、C メジャー・トライアド 4 弦ルート



譜例、C メジャー・トライアド 3 弦ルート



スケールの時と同じように、2～3 弦間のチューニングによって、形がずれる感じを掴んでおきましょう。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

さて、この素材をどう使っていくか？なのですが、まずは単純に指板上の音の配置を把握するのに使えますね。

これまでやってきた、メジャー系のスケールとも形が一致しますし、すでに知っているメジャー系のコードフォームとも一致する部分があるでしょう。

ここから 3rd を半音下げたらマイナー・トライアドですし、それに加えて 5th も半音下げたらディミニッシュド・トライアドです。

逆に、メジャー・トライアドから 5th を半音上げたら、オーギュメンテッド・トライアドですね。

これらについては、今後どこかでやっていく事になると思いますが、今の段階でも、試しに弾いてみましょう。

スケール的に見ても、あるスケールの構成音の中から、メジャー・トライアドの形を抜き出してソロ(メロディー)に使っても良いですし、ちょっと工夫すればフィルイン的なフレーズも作れます。

過去のスケールブロックを繋げたように、このトライアドを適当に繋げたりすると、指板上をワイドに使ったフレーズなども作れてしまいます。

トライアドは調性音楽の基本中の基本なので、この形を覚えておくと、あらゆるプレイに派生させる事が出来ます。

こう言った基本の練習は、そのままやる事ももちろん大事ですが、自分なりに創意工夫を加えてフレーズにしてみたりすると応用力が付いてくるでしょう。

それが良いフレーズであれば、実際に曲を弾く時などに使えますし、モノも覚えられるしで一石二鳥ですね。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved